

刊夕日九十月五

常磐每日新聞

定価 一月五拾圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 廣告料 五圓以上 一頁一圓 二頁一圓 三頁一圓 四頁一圓 五頁一圓
 日曜 祭日の翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 電話 六二〇
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

彌陀の本願力

真繼 雲山

佛様の實體とは如何なるものか。大はお寺の本堂に輝きたまふ金色の佛像、小は戸毎の佛壇にまします佛像を佛様と見て誰かが禮拜はしてゐるもの、それは佛様のお姿を假りに現はしたものに外ならぬので佛様そのものではないこと明らかである。そこで各人はその佛像、佛畫を通じてその當人の智慧相應に佛様を考へてゐるのである。

左様にして造りあげた佛様は當人の智慧相應のものであるから大學生はそれ相當に、また賤ヶ伏屋の婆さんは婆さん相當に、自分相應の佛様をこしらへ上げるから萬人萬様である。眞實の佛様とはそのやうな前様のお姿であるとは思はれない。

端的にいへば智慧相應につくり上げた佛様は要するに智慧の産物であり、も一つ皮肉にいへば空想であり想像である。ずつと高等に進んだにしてもそれは佛敎の學問であつて佛は何時までも主觀に對する客體の位置にある。その客體の佛様は求むれば求むるほど遠方に遠ざかりて自分の心よりハッキリ離れゆくであらう。

から、そのやうな研究の對照たる佛様が自分を救ふてくれる筈がない。左様な佛様に如何に嘆願し要求するとも結局は賽銭損に終るであらう。

佛様が佛壇にゐますとすれば天の一角に鎮座しますものとして頼めば聞き届けて下さると考へるのも人間の勝手な想像である。況んや眼に見える一種の靈力を放散して嘆願者に奇術師の如き作用をなしたさると考へ、それを他力の信仰と思ふならば尚ほ更ら以て當らぬ、但し佛様なるもの無しと否定するのではない。自力門においては悟れば即身是佛、悉有佛性と觀する他力門においては離言絶慮不可思議なる(思ひ議することの出来ない)客體ありとしこれを佛とする。その佛の心は一念の信によりて獲得することが出来る信心とは先方を信用することを意味せず、信心とはまことの心といふ。

左れば煩惱具足、罪惡深重より外に持ち合せのない凡夫として凡夫以外のまことの心が心内に沸いたとすればそれが信心の獲得である。自分以外のまことの心を他より迎ふる故に他力の信仰であるまことの心を佛として迎ふることを以て凡

夫が佛を迎へ取る道はない。阿彌陀佛とは不可思議なる客體であつてわれわれ凡夫には見ることもつかむことも出来ぬがそれをまことの心として心内に感ずることとは出来る。その感ずるはたつきは力である即ち見ることは出来ぬが力として感ずることは出来る、それが本願力である。

力といへば何かあるやうに思はれ易いが力といふに個體はない。家を倒し船をくつがへす風の力は強い。その風が吹くといふも風な實體ありて吹くにはあらず吹くのが風である。吹く力以外に風と稱する何物もない。地震の威力は慘虐である。その地震が山河を破壊するといふも揺れるのが地震であつて揺れる力以外に地震といふものはない。罪苦に泣く凡夫の心内にまことの心が沸いて佛といふものを感得するならば、さうしてその信心が(信心とはまことの心と訓むなり)その當人の全生活に力としてたらなくならばそれが佛の力であり本願力である。佛か何處に如何なる實體を存し給ふものなるかをわれわれは知らぬ、また散亂の凡夫としてこれを觀照するに由もないが、たゞ一念の信により一聲の念佛によつ

て、凡夫の心以外の佛心に觸れたとき力としての佛を感じその力を如實に體驗することが出来る。これを信

耳鼻喉科専門

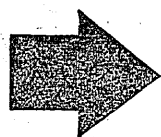
平町田町七〇番地
 山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 電話六九一

夏の學生服

野も山も新緑です……
 輕快な霜降洋服が澤山揃ひました
 どうぞ御用意下さい。

小學生用……¥.40
 同(特製品)……¥1.20
 中學生用……¥2.05

ふかや洋服店 平電 三203



撰當

五月節句の御祝品も安く良いので!!!
 御座敷幟揃
 武者人形
 金太郎人形
 布 鯉
 平町四丁目
 スガノヤ提灯店
 電話九五

外科 小兒科 内科

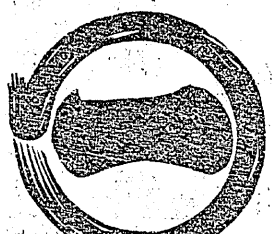
醫學博士 渡部 義夫
 醫學士 渡部 さい子
 平町田町大通り(電話二七七番)
 入院應需
 渡部 外科

肉 鹽 豚 蒲 鉾

田町 三三三三屋

看護婦急派
 の求めに應
 じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

市貝焼
 産土市貝焼



魚問屋

店理代平命生本日本最大優最
 榮 盛 賀 志
 (三一電)目丁區平

郡下主要地で

交通量の調査

平管内の場所決定

平土木監督所では来月一、二、三及び十月十八、十九、二十日の二回に亘つて全縣下各主要道路で行はれる交通情勢調査當日は全所員が出勤して左記町村に於ける國縣道路の交通量を調査する事になつた

教育研究會

廿六日に開く

本城第三分郡第一會教育研究會は来る二十六日午前八時より平第二小學校に於て開き自習時に於ける狀況朝會及び阿部ミツノ、鈴木寛兩訓導の實地授業を參觀し後批評會を催すと

危まれた小川村議

候補者稍々出揃ふ

選挙に來る廿八日

既報石城郡上下小川組合村では昨年度匡救事業の不正事件其他の關係から來る廿八日執行される村議選舉の立候補届が未だに無く成行を注目されて居たが下小川の各部落では昨十八日各大字毎に打合せ會を開き立候補者の選出を行った結果大體左の如く決定を見たと前後して上小川村方候補者

傳染性の貧血馬

極力豫防撲滅を圖る

石城畜産馬組合の川上技手は去る十五六の兩日川上、同村字小白井吉成互理方化

馬一頭及び字下桶賣松本常重方牝馬二頭合計三頭の傳染性貧血馬を發見したので是が傳染豫防の爲め近く撲殺する事になつた

引地訓導法會 平第一小學校にては本日十有餘年平の教育の爲め盡力され

昨年物故した元同校訓導引地淳四郎氏の一週忌に當るので職員及び生徒一同墓參をなした

高久村議戦

きのう當選決定

既報石城郡高久村の村議選舉は昨十八日執行投票數四百八十のうち棄權三十九、無効一を以つて開票の結果左記十二氏が當選した

- 一〇 小野 勝義
- 四九 箱崎半衛門
- 四六 矢吹 與一
- 四一 藁谷 義長
- 三九 鈴木龜太郎
- 三七 田中 市郎
- 同 志賀 今吉
- 三六 國井榮太郎
- 三四 鈴木重太郎
- 三〇 松本 作治
- 同 片寄喜久二
- 二九 鈴木 庄松
- 次点 本間長二郎
- 同 田中市太郎

磐女學期考査

磐城高等女學校にては来る二十四、二十五日の兩日第一期臨時考査試験を行ふと

平町人事

△鷹匠町四 達正志氏次

男敘夫

△四丁目六 當時石城郡小名濱町字中明神町一關内仁平氏長女 芳子
△仲間町八一 當時東京市向島區吾嬬町七ノ三三阿部精一氏長女 清子

結婚

△東京市淀橋區西久保二丁目三二七 佐々木良雄氏(三五)二丁目三六 坂田貞子(二七)
△東京市下谷區二長町八七 山崎宗一氏(二八)月見町三三三林イエ(二三)

回死

△一丁目二西牧保夫(二二)

關西の旅から

磐中修學旅行團

第六信

東京 平

憧憬の都、三條に五條に思ひ出深き京都に別れを付けて車中の人となりしは昨宵でした。車中連日の疲労の爲にがをつておるかと思ひの外案外皆騒ぎました。而し連日の睡眠不足には勝てぬと見え、名古屋：大府：豊橋と過ぐる頃より何時とは無しにウトウトと眠つてしまひました。こうして京都出發以來期待して居た濱名湖・天龍川・富士等の名勝も熟眠の中に汽車は速いものはや小田原を通りこして横濱へと

な東京ステーションに入つた。諸先輩の出迎ひの中に廣田先生の御注意あり午後二時まで上野驛集合との約束のもとに解散皆思ひの行動をして二時集合。二時先輩諸兄の見送りの下に常磐線の客となり、懐しの平へと向ひました

車中過ぎし日の思出等語り合ひつゝ、談話の内に水戸に着きました。その頃より日は西に傾き色々なる雲黄金色に輝き、我々の無事を祝福するかの様でした

平近くになれば約大半は途中にて降り、残り半分皆元氣がない。遂に我々の汽車は平に着た。

驛廣場にて校長先生の挨拶あり萬歳を三唱して連日の疲労はどこへやら一路家路へと喜び勇んでもどつた

美味！
芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

外科

専門 X
科線光

上田外科病院

平町南町
電話一二九番

改稱御知らせ

新藤屋(支店)改め

鐵道省 御指定
逓信省

旅館 甲陽館

店主 武田 コウ

平町驛前電話一四八番

冷たき鐵窓の中で

父子初の對面

小名濱事件の主魁樗木技師

接見所の劇的情景

公判の日も間近に迫つた小名濱築港疑獄事件の中心人物元内務技師樗木篤夫(四〇)は其後他の被告が全部保釋出所したに拘らず未だに保釋を許されず一人ぼつねんと平刑務所の獨居房に居残り毎日讀書に耽りひたすら精神修養に勤めて居るが本日過般男子を分悦した妻トヨ子(三三)が愛兒を連れ入所後初めての面會を願出て同情する當局の許可により冷たい接見所で父子初の對面をした上名を孝伸と命名し接見僅か十分間にして無心の兒を母の背に微笑みながら父と別れの劇的場面を展開して係官一同を涙ぐませた

身分確認の訴訟

原告兄弟勝つ

けふ平支部で判決

既報の父母を相手取り平支部に身分確認の訴訟を提起した原告石城郡赤井村大字日渡百十八番地船生新一、良榮、金平、正被告船生演次郎及び妻ハツコ間の判決言渡しは本日午前十時より平支部に於て中島裁判長係り竹内、關口兩判事陪席各關係者立會の下に裁判長より「被告兩名は新一を長男、良榮を二男、金平を三男、正を四男なる事を各確認すべし、訴訟費用は被告の負擔とす」と言渡され新一は完全に家督相續權を獲得した

食ひ廻る

犯人平署に檢舉

宮城縣伊具郡角田村字熊前五三生れ當時住所不定殺人未遂詐欺前科二犯太田木(四三)は去月中内郷村字金坂四二料理店松本スニ方雇人秋田縣北鹿郡三重村字新田生れ佐藤キクヨ(三〇)が親權

明日のラジオ

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) お話「太陽」鈴木敬信
- 後六、三五 趣味講座「自然と俳句」阿部みどり
- 後七、三〇 舞臺劇「親不知」新歌舞伎座より中繼
- 河合武雄 喜多村祿郎一

明日の部

- 後八、五〇 ラヂオドラマ「金曜日の朝」高橋潤其他
- 後九、三〇 時報 ニュー
- 氣象通報 番組豫告
- 前六、三〇 基礎ドイツ語 一七 橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「朝鮮料理」トミーホイ(綱編)

成田玉純發表

- 前一〇、三〇 家庭講義
- 醫學博士植松七九郎
- 後〇、〇五 絃樂四重奏
- 毛屋平吉 石田秀雄外
- 後二、〇〇 家庭大學講座「維新の大業と婦人の力」基太郎
- 後二、二〇 野球試合實況
- 東京大學野球聯盟リーグ
- 外苑球場より中繼
- 後四、〇〇 大角力夏場所實況(九日)國技館より中繼
- 後六、〇〇 子供の時間
- ハーモニカ 慶大ハーモニカソサィテイ
- 後六、二五 ことばの講座
- 神保格
- 後七、三〇 講演 フランス拳闘選手ブラドネル、ラファエルユエグ
- 後八、〇〇 少女歌劇「仲鷹妻」寶塚少女歌劇花組生徒
- 後八、四〇 ビアノ獨奏
- 四曲 バウルシヨルツ
- 後九、〇〇 長唄「八犬傳」
- 下芳村伊四郎 杵屋和吉

鮮人同志の大喧嘩

平署で取調中

平町二丁目居住看板職長甲濟(三三)は十六日夜十二時頃同町飲食店樂天事鮮人李覺通(三九)方に於て飲酒中些細の事から口論となり長は李の前額部其他に全治一週間を要する打撲傷を負はしたので平署では目下兩名を呼出して取調中である

平商遠足運動

平商業學校及び第二小學校にては本日全校生の遠足運動會を催した

野球戦備

連日の猛練習

警城中學校及び平商業學校にては今年度縣下中等學校(野球)七月二十三日より三日間福島商業學校(庭球)八月一日會津工業學校(武道)八月一日安達中學校(競技、機械體操)八月一日相馬中學校

罰金未納者を愈よ換刑處分

一齊に逮捕状を送達

平檢事局にては既報の如く整理上止むを得ず罰金及び科料未納者二百六十餘名に對し換刑處分に附すべく最後の逮捕状を發したが石城郡内郷村大字宮字金坂九番地大關佐吉(三七)は昨年四月頃賭博傷害罪に依り罰金五十圓の略式命令に處せられたるも今日迄納入しないので終りに本日平刑務所に留置され之等未納者のトップを切つた

事務検査の

穀物検査所では来る廿二日管内及び四倉勿來兩出張所員を招集して事務の研究打合せ會を開き午後一時よりは團體事務所で開催される郡農會主催小麥增收獲競争技審査に關する協議會に出席すると

平職界紹介所報告

回人を求める方

- △紙箱製造見習 十六才
- 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △自動車助手 二十才前後
- 尋卒 給料面談(小名濱町某)
- △農夫 十八以上 委細面

驛に忍び入り

乗車券を窃取

綴の二少年捕はる

日鈴木は自宅で檢舉したが四家は前夜直に逃走したの各地に手配中昨十八日午後十時頃西白河郡矢吹町に於て取押へられ目下平署に押送して取調中であるが平町に於ても窃盜六件を働いてゐると

市中原醫院

平町田町 電話二一四番

談(好間村某)

回職を求める方

- △料理人 二十四才 給料面談(平町某)
- △女中 十八才 高女卒 給料面談(好間村某)
- △機械工見習 十六才 商業一修 給料面談(内郷村某)
- △洋服教師 二十八才 高卒 給料面談(平町某)

市中原醫院

平町田町 電話二一四番

談(好間村某)

回職を求める方

- △料理人 二十四才 給料面談(平町某)
- △女中 十八才 高女卒 給料面談(好間村某)
- △機械工見習 十六才 商業一修 給料面談(内郷村某)
- △洋服教師 二十八才 高卒 給料面談(平町某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
上田馬之助

第三百四十二號

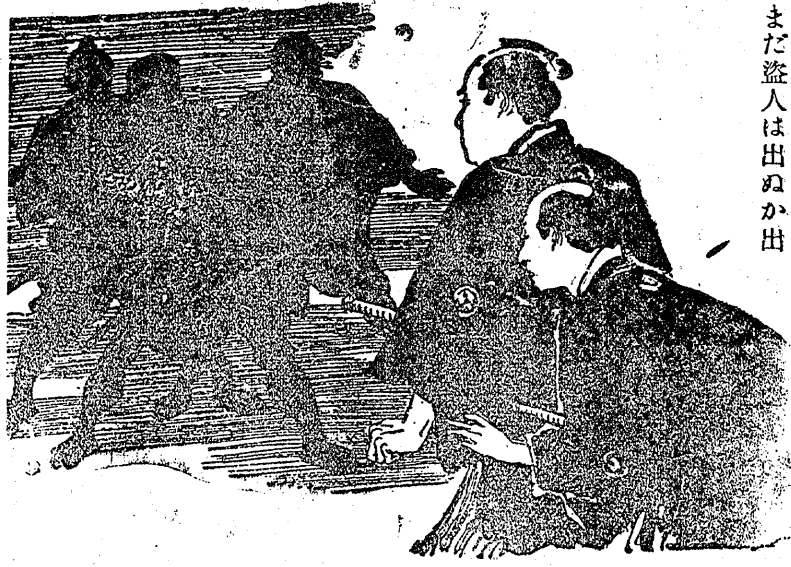
腰の抜けた新三郎

上田馬之助は武藏屋の拂をして新三郎を連れて秋葉を出た

馬「酔つた〜あ、愉快〜モウ花見の俗人どもも四方に散り土手を静かだ新三郎殿提灯持は先に立たねば叶かん後に居つては足許が見えぬ。イヤ先が見切れぬ」

新「大分酔ひましたな久し振りで土手の風に當つた吉原にはかり引き籠つて居てもうあの廓も飽きた、それに金がなくなつたから近寄る者もなし仲之町で藝人共に會へばとて皆顔をそむけて行き過ぎる不埒な奴」
馬「愚痴を云はれるな世の人はみんなさう云ふ氣風だ獨り藝人どものみ輕薄な人間ではない、オット足許が危い、時に新三郎殿此頃向島に物取りが出るさうだそれは五人六人黨を組んで出居ると聞いたが然う云ふ者があれば面白いなこの腰の物の切れ味を試めて南無弓矢大武神あはれ應護のまなじりを垂れ給うて強盜共の此處に現るゝ様偏に願ひ奉る」
新「これは怪しからぬ〜」

盗に會はせると神に祈るとは變つて居るな
馬「イヤ太平の今日刀を試すこともならぬ、そこで強盜に出會へば眞二つに致して此の斬れ味を試す、強盜出ろよまだ盗人は出ぬか出



馬「イヤ有難い」
と云つて平手で額をピシヤとたいたこれは心の嬉しさを形を以て現はした
○「ヤイ是れ懐中物をこれへ差し置いて早々立ち去れぬや角く申すと手は見せぬぞ」と威し付けた
馬「コレハ、御苦勞千萬豫て此の十手に各々の出るを承はり居つたもう出るかもう見えさうなもの待ち受けて居つたがこゝに現はれたは有難い、しかも七八人これにて刀の利鈍を試すには

ろよ〜」
なぞと云ひながら三圍りのやしろ近くかゝつて來た時にバラ〜と土手下よりかけ上がった七八人、二人の行手をふさぎ
○「待て」
と呼び止めた上田はこれを見ると

は持つて行けしかし息ある中は一錢たりとも與へることはならぬ
○「汝此奴其の高言は我々に打ち勝つた後に申せ覺悟しろッ」
と云ひながらバラ〜と二人を取り巻いた、これを見て驚いたは新三郎清元や常磐津の心得はあるが劍術は甚だ未熟、さア大變だ上田は強いから殺される様なことあるまいが俺はとても此の者共を敵として闘ふことは出来ない、茲は金を渡して逃れるが上策と上田の前に來て

最も好都合
○「黙れ此奴吾々を相手として勝負いたす所存か」
馬「さうだよ俺も武者だ貴様達に恐れて刀もまじへず懐中物を與へては恥だそれ故勝負いたして遣はずそれで刀の双鐵の切れ味を試みる、俺が斬らばならば金

〜と歩む、此時賊は新三郎の襟がみを取つて引き戻し逃るな此奴と引つ抱へて土手下に下りバラ〜と北の方を指してかけて行き木母寺の境内へ連れて來た處へ同類が三四人それへ來たが
○「何うした〜」
○「ウム一人捕つて來た」
△「其奴を縛り上げて懐中物を抜き取つた後斬つてしまへ」
イヤ新三郎愈々驚いてお助けくださいと悲鳴を揚げた

目丁二町平
三井タクシー
番五八六話電

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南七
電一〇七

五月人形陳列會

◎非常時日本の心意氣
尙武人形
◎品と値で常に祝品界をリードするフクダヤの名作品を御覽下さい。
御座敷飾セット 六圓ヨリ百五十圓迄
武者人形 一圓ヨリ三十圓迄
金太郎人形 五十錢ヨリ十八圓迄
五巾外のぼり 十圓ヨリ四十五圓迄
大鯉のぼり 二圓ヨリ四十八圓迄
二丁目の フクダヤ

専門
産科
婦人科
花柳病科

◎入院隨意
井坂醫院
平町田町 電話五五九番

吉田眼科病院
平町屋町、電話六八番

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!